

JACET-Kanto Newsletter

一般社団法人大学英語教育学会関東支部

September 30, 2021, No.17

JACET 関東支部ニューズレター第 17 号 (WEB 版) 刊行に寄せて

支部長 山口高領 (秀明大学)

21年6月から第5代支部長を任されました山口高領でございます。関東支部に所属する会員の先生方はもちろん、他の支部の先生方にもお役に立てるよう努めて参ります。

副支部長には、Paul McBride 先生 (玉川大学) にお引き受け頂いております。支部事務局は、従来の1人体制から、長田恵理先生 (國學院大學)、新井巧磨先生 (早稲田大学)、中山夏恵先生 (文教大学) という3人体制になりました。引き続き、山本成代先生 (創価女子短期大学)、鈴木彩子先生 (玉川大学) にも支部幹事をお引き受け頂いております。また、長年ご尽力いただいた先生方と新たに入ってきた方々とが協力し、新たな体制で運営してまいります。支部運営の会議では、本務校の定年を迎えられた先生方にもご協力を頂いております。相互理解を進め、多様であることの強みを引き出せる支部を目指しております。

関東支部の主な活動は、関東支部大会の開催、

JACET-Kanto Journal の発行、関東支部講演会の開催、ニューズレターの発行です。関東支部大会は本年度で第14回を迎え、20年度に引き続き、完全なオンラインでの開催となりました。

JACET-Kanto Journal は、20年度3月発刊の号からPDFファイルでの発刊となり、21年度3月発刊号からは、J-STAGE にXML形式での掲載を予定しています。XML形式での掲載になりますと、投稿論文が検索されやすいなどの利点があります。

21年11月6日(土曜)には、支部企画として、研究手法のワークショップを実施予定です。これは、ここ数年特に会員の先生方からのニーズを感じているもので、2年前より行われています。会員のみならず無料ですので、是非参加をご検討ください。

JACET 本部とのコラボレーションも行っています。21年8月に開催された「第60回記念国際

目次

・巻頭言

JACET 関東支部長 山口高領-1-

・第14回関東支部大会報告

支部大会運営委員長 山口高領-2-

・第1回支部総会報告

支部事務局幹事 長田恵理-4-

・支部講演会委員会報告

支部講演会委員長 山本成代-7-

・JACET 関東支部講演会 (第1回) 報告

支部講演会委員 青木理香-7-

・支部紀要編集委員会からのお知らせ

支部紀要編集委員長 鈴木彩子-8-

・事務局だより

支部事務局幹事 長田恵理- 9

-

大会」では、JACET Hours の関東支部の企画として、シンポジウム「コミュニケーションの確保を目指した遠隔授業の取り組み— 一般教養・専門分野・教職課程での英語授業—」が行われました。支部運営にご協力頂いている河内山晶子先生（明星大学）、藤尾美佐先生（東洋大学）、中山夏恵先生だけでなく、西川恵先生（東海大学）や Jeffreys Marie Atsuko 先生（電気通信大学）にもご登壇頂きました。

前支部長である藤尾美佐先生には、現在も支部研究企画委員として、ご協力をいただいています。支部長が変わると運営委員が大きく変わることがこれまでありましたが、支部長に限らず、すべての支部研究企画委員がお手伝いできる時期にお手伝いを頂けるような支部運営環境を目指していきます。もちろん、前支部長時代からの「働き方改革」を引き継ぎ、可能な限り支部研究企画委員の仕事量を減らすよう心がけます。支部研究企画委員へご意見・ご興味などありましたら、お気軽に事務局までご連絡ください。

今後とも、ますますのお力添えを頂きますと幸いです。

第 14 回 関東支部大会報告

支部大会運営委員長

山口高領（秀明大学）

第 14 回（2021 年度）JACET 関東支部大会 <http://www.jacet-kanto.org/2021convention/index.html> が、「DX 時代における大学英語教育—ハイブリッド・ハイフレックス・対面型学習—(English Language Education in Universities during the New Era of Digital Transformation: Hybrid, HyFlex, and Face to Face Learning)」を大会テーマとして行われました。研究発表 2 件、実践報告 4 件、SIG 発表 3 件、公募ワークショップ 1 件、公募シンポジウム 1 件となりました。賛助会員のみなさまからは、

桐原書店、mpi 松香フォニックス、Lexxica の 3 社からライトニング・プレゼンテーションを頂きました。コロナ渦の中、重複アドレスを除いて 100 名以上もの会員のみなさまにご参加頂きました。昨年度のオンライン大会同様、関東支部以外の先生方にも参加頂けたことに、感謝申し上げます。

20 年度に引き続き SIG の発表も行われ、今回は 3 件ありました。

■ESP Kanto Chapter

“ESP in an Online Environment”

Nishikawa, Megumi (Tokai University)

Foss, Patrick (Tokyo Medical and Dental University)

Yu, Yan (Tama University; part-time)

Hashimoto, Shin'ichi (Tokai University)

■自律学習研究会

「コロナ禍における学習者と教師の自律的成長 (Learner and Teacher Autonomy under the COVID-19 Pandemic)」

林 千賀（成蹊大学）

小嶋 英夫（文教大学）

片桐 早苗（弘前大学）

■教育問題研究会

「教育問題研究会の活動とその成果：過去・現在・未来 (Accomplishments and Future Perspectives)」

清田 洋一（明星大学）

大崎 さつき（創価大学）

山口 高領（秀明大学）

栗原 文子（中央大学）

また、以下の公募ワークショップが行われました。

Foreign Language or Lingua Franca: Examination of the Application of Research Outcomes to

Language Education Through Pragmatics

Lala Takeda (Showa Women's University)

Megumi Okugiri (University of the Sacred Heart)

Naoko Osuka (Meiji University)

Pino Cutrone (Nagasaki University)

Keisuke Imamura (Tokyo University of Marine Science and Technology)

Misa Fujio (Toyo University)

Ivan Brown (Joetsu University of Education)

Ayaka Takeuchi (Ibaraki Prefectural Shimodate First High School)

John Campbell-Larsen (Kyoto Women's University)

さらに、以下の公募シンポジウムも行われました。

小学校英語指導者の育成に J-POSTL エレメンタリーはどのような効果をもたらすのか

What effect does the J-POSTL Elementary have on pre-service primary school teacher development?

米田 佐紀子 (玉川大学)

栗原 文子 (中央大学)

山口 高領 (秀明大学)

長田 恵理 (國學院大學)

以下は、研究発表と実践報告の後記です。司会の先生方にご執筆を頂きました。ご協力に心より感謝申し上げます。

#01. 実践報告 (10:40-11:10)

自己エスノグラフィーによる教師の省察 —語用論・文法・CLT 統合型指導に向けて—

An Invitation to Autoethnographic Research

シーハン小田 早苗 (お茶の水女子大学)

対話型自己エスノグラフィーによる半構造化インタビューを用いて、語用論・文法指導・CLTを繋ぐ統合型指導実現のための要因を調査し、学校と社会或いは大学と高校の連携、教師の多面的

視点、教師が持つ様々なアイデンティティの存在を自ら意識することの重要性が確認された。また、自己エスノグラフィーが、他者自身の省察を促すことで、オープンな対話の場を提供する側面も持ちうるということがわかった。

(長田 恵理・國學院大學)

#02. 実践報告 (10:40-11:10)

DX時代に問う異文化適応目的のESL教授法の有効性

Teaching ESL for Face to Face Intercultural Communication in the Era of Digital Transformation

大味 潤 (東京経済大学・非常勤講師)

日本人英語学習者に対し、文法などの言語情報だけでなく文化差などの非言語情報を組み込んで実践した英語教授法についての報告がなされた。オンライン授業であったが、身近なシチュエーションを想定した会話や日本文化と英語圏文化の比較などを通して、学生は異文化適応やメッセージの言語化の重要性を認識することができた。このことから、言語障壁だけでなく非言語障壁にも対応できる授業の可能性が示唆された。

(青木理香・東洋大学)

#03. 実践報告 (14:10-14:40)

ライティング支援によるピアディスカッションの効果

The effect of writing-assisted peer discussion

木村美由紀 (東京慈恵会医科大学・非常勤講師)

大学1年生対象の論理的思考能力とディスカッション力の育成について実践報告がなされた。ブレイクアウトルームを使ったピアディスカッションを通して他者からの助言や意見を聞く力を伸ばし、後期はライティング課題を加えたところ、学生は内容の整理の仕方、論理性の強め方などに関する指導内容を咀嚼して英語で説得力のある論理的な文章を書く力を伸ばした。日本人が身に

つけたい論理的思考能力の基礎基本である。

(佐野富士子・元横浜国立大学)

#04. 実践報告 (14:10-14:40)

オンライン授業における場づくりとアプローチ
—英語学習のためのマインドセットに焦点をあてて—

Creating an Environment and Approach for Online Lessons: Focusing on Mindset for English Studies

関戸冬彦 (白鷗大学)

オンライン授業では、学びにふさわしいラポールをつくれるかどうか成否の鍵となる。この「場づくり」を、C. S. Dweck の提唱する“Growth Mindset”(成長し続けるしなやかなマインドセット)の概念で実現しようという発表者の実践報告の後、大半は問題意識の共有に時間が割かれた。全員終始アットホームな雰囲気の中で、日頃考えていることを自由闊達に開示し合い、まさに「growth mindset による学び合い」を体感するセッションであった。

(河内山晶子・明星大学)

#05. 研究発表 (14:50-15:20)

Transformative Learning Theory in the University EFL Online Classroom

Enomoto, Andrew (Bunkyo University)

In this presentation, Mezirow's transformational learning theory (1978) was introduced. The presenter explained that it is not applicable to all English classes but can be used in more content-based EFL classes and discussion classes. At the end of his presentation, he explained a practical example of how he incorporated this theory into his class, along with student responses, which were very thought-provoking for the audience.

(Natsue Nakayama, Bunkyo University)

#06. 研究発表 (14:50-15:20)

Comparison of First-year Students' L2 Motivation at Four Universities

Fukuda, Tetsuya

(International Christian University)

This presentation discusses the comparison of first-year university students' L2 motivation levels at four universities in Kanto. In this study, L2 motivation is conceptualized to comprise five sub-components: effort, enjoyment, integrativeness, instrumentality, and ideal L2 self. The results imply that the administrators of language programs and the instructors there alike can keep in mind that their school has its own characteristics which can be called a school culture, and that their students change during their first year differently than in other schools.

(Kiyota Yoichi, Meisei University)

第 1 回支部総会報告

支部事務局幹事

長田恵理 (國學院大學)

2021 年 7 月 11 日 (日) にオンラインで、2021 年度第 1 回支部総会が開催されました。支部総会では、2020 年度 事業報告・会計報告、2021 年度 事業計画についての説明が行われました。以下に内容を記載いたします。総会以降、2021 年度の未定・予定のものに関し、決定あるいは変更したものについては追記しております。また、会計報告は省略します。

■2020 年度事業報告■

I. 大会、セミナー等の開催 (1 号事業)

(1) 支部大会の開催

名称：第 13 回 (2020 年度) 関東支部大会

日時：2020 年 8 月 29 日 (土) 30 日 (日)

場所：オンライン

大会テーマ：危機の時代と変わりゆく英語教育
研究発表 7 件、実践報告 6 件、ワークショップ 1
件、賛助会員発表 3 件、SIG 発表 6 件、関東支部
特別企画（パネル・ディスカッション）1 件
参加申込み登録者数：約 300 名

(2) 関東支部・東洋大学共催企画の開催

名称：JACET 関東支部・東洋大学共催企画

場所：オンライン

規模：毎回約 60 名

第 1 回

日時：2020 年 6 月 13 日（土）16:00~17:20

場所：オンライン（Zoom で実施）

題目：「オックスフォード大学と持続可能な開発
目標（SDGs）：英語 4 技能試験に向けたラ
イティング指導の示唆」

講師：中谷安男先生（法政大学経済学部教授）

第 2 回

日時：2020 年 11 月 21 日（土）16:00-17:20

場所：オンライン

題目：テキストマイニングに基づく学習者コーパ
ス研究の理論と方法

講師：李在鎬（りじえほ）先生（早稲田大学大学
院日本語教育研究科教授）

第 3 回

日時：2021 年 3 月 13 日（土）16:00-17:20

場所：オンライン

題目：‘ELF’MI で ‘WE と ELF’ を学ぶ：学生の
意識変化は？－英語教育への示唆

講師：村田久美子先生（早稲田大学名誉教授）

(3) 支部講演会の開催

名称：JACET 関東支部講演会

場所：オンライン

規模：各回約 60 名

2020 年度 JACET 関東支部講演会（10 月）

日時：2020 年 10 月 3 日（土）16:00-17:20

講師：長田恵理先生（國學院大学人間開発学部准
教授）

場所：オンライン

題目：イタリアの小学校外国語教育—教材・教具
を中心に

2020 年度 JACET 関東支部講演会（12 月）

日時：2020 年 12 月 12 日（土）16:00-17:20

講師：浅岡千利世先生（獨協大学外国語学部英語
学科教授）

場所：オンライン

題目：英語教師の学びの過程と協同的振り返り

(4) その他

JACET 関東支部（5 月）緊急座談会

日時：2020 年 5 月 23 日（土）14:00 - 15:30

場所：オンライン（Zoom で実施）

題目：「オンライン授業の課題と可能性」

II. 『紀要』『支部ニューズレター』等の出版物の
刊行（2 号事業）

(1) 『関東支部紀要』第 8 号の刊行

日時：2021 年 3 月 31 日

発行：デジタルデータ

(2) 『関東支部ニューズレター』第 15 号、第 16 号の刊
行

日程：2020 年 10 月 31 日

2021 年 3 月 31 日

※支部ホームページに掲載

III. その他（5 号事業）

(1) 支部総会の開催

名称：2020 年度 第 1 回、第 2 回関東支部総会

日時： 1) 2020 年 8 月 29 日（オンライン）

2) 2020 年 11 月 9 日（オンライン）

目的： 1) 2019 年度の支部の事業報告、会計報告
2020 年度の支部の事業計画

2) 2021 年度の支部の事業計画
予算案および人事案の審議

(2) 支部役員会の開催

名称：関東支部運営会議

日程：2020 年 4 月 11 日、5 月 19 日、6 月 8 日、7 月 13 日、8 月 22 日（臨時）、9 月 12 日、10 月 10 日、11 月 14 日、12 月 12 日、2021 年 1 月 9 日、3 月 13 日

場所：オンライン

目的：関東支部における支部事業、研究会活動、運営の報告、及び活動報告の立案、協議を行った。コロナウイルス対策のため、すべてオンラインで会議を実施した。

■2021 年度事業計画■

I. 大会、セミナー等の開催（1 号事業）

(1) 支部大会の開催

名称：第 14 回（2021 年度）JACET 関東支部大会

日程：2021 年 7 月 11 日（日）

目的：大学英語教育及び関連分野に関する調査・研究の発表を行うこと

形態：オンライン

大会テーマ：DX 時代における大学英語教育—ハイブリッド・ハイフレックス・対面型学習—

(2) JACET 関東支部企画の開催

名称：JACET 関東支部企画

日程：2021 年 11 月 6 日（土）

形態：オンライン

(3) 関東支部講演会の開催

名称：第 1 回 JACET 関東支部講演会

日時：2021 年 6 月 12 日 16:00 - 17:20

場所：オンライン

題目：「英語学習者の英語に対する態度に関する質問票の開発（The development of a new measure of English language learners' attitudes

towards English as a global language.）」

講師：船田 なつの先生（東京大学 大学総合教育研究センター 特任講師）

名称：第 2 回 JACET 関東支部講演会

日時：10 月 9 日（土）16:00 - 17:20

題目：The Autonomy-Supportive Classroom: Guiding Learning using Formative Assessment and ICT Tools

講師：福田ステイブ利久 先生（文教大学 教育学部 准教授）

講演言語：英語

形態：オンライン

名称：第 3 回 JACET 関東支部講演会

日時：12 月 11 日（土）16:00 - 17:20

題目：教育実践に取り入れたい最新の SLA 研究— ISLA(学びの場における SLA)を中心に

講師：佐野富士子 先生（元横浜国立大学 教授）

形態：オンライン

II. 『紀要』『支部ニューズレター』等の出版物の刊行（2 号事業）

(1) 『JACET 関東支部紀要』第 9 号（英語名：JACET-KANTO Journal）

日程：2022 年 3 月 31 日

形態：オンライン

(2) 「JACET 関東支部ニューズレター」

日程：2021 年 9 月 30 日（第 17 号）

2022 年 3 月 31 日（第 18 号）

形態：JACET 関東支部ホームページに PDF で掲載。

III. その他（5 号事業）

(1) 支部総会の開催

名称：2021 年度第 1 回、第 2 回関東支部総会 第 1 回

日程：2021 年 7 月 11 日

形態：オンライン

第2回

日程：2021年11月6日

形態：オンライン

目的：2022年度の支部の事業計画、予算案及び人事案の審議

(2)支部役員会の開催

①第1回支部運営会議

日時：2021年4月10日（土）11:00～12:00

形態：オンライン会議

議題：1) 2021年度支部大会について
2) 2021年度支部総会について
3) 2021年度年間活動計画、人事について

②第2回支部運営会議

日時：2021年5月8日（土）11:00～12:00

形態：オンライン会議

議題：1) JACET 関東支部企画講演会について
2) 2021年度支部大会について

③第3回支部運営会議

日時：2021年6月12日（土）11:00～12:00

形態：オンライン会議

議題：1) 2021年度支部大会について

④第4回支部運営会議

日時：2021年7月10日（土）11:00～12:00

形態：オンライン会議

議題：1) 支部大会準備

⑤今後の予定

第5回9月11日（土）15:00～

第6回10月9日（土）14:30（予定）

第7回11月6日（土）12:30（予定）

第8回12月11日（土）14:30（予定）

第9回2022年1月8日（土）14:30（予定）

第10回2022年3月12日（土）14:30（予定）

支部講演会委員会報告

支部講演会委員長

山本成代（創価女子短期大学）

■2021年度上半期活動報告■

2021年度上半期は、6月12日（土）に第1回支部講演会を行った。講師には船田なつの先生（東京大学 大学総合教育研究センター特任講師）をお招きし、「英語学習者の言語態度に関する質問紙の開発」についてご講演いただいた。100名以上の申し込みと、63名の参加者があり、盛況の中で幕を閉じた。

■2021年度下半期活動計画■

2021年度下半期は、10月9日（土）に、福田スティーブ利久先生（文教大学 教育学部准教授）をお招きし、「The Autonomy-Supportive Classroom: Guiding Learning Using Formative Assessment and ICT Tools」というタイトルで第2回支部講演会を、また、12月11日（土）には、佐野富士子先生（元横浜国立大学）をお招きし、第3回支部講演会を予定。

JACET 関東支部講演会（第1回）報告

支部講演会委員

青木理香（東洋大学）

日時：6月12日（土）16:00-17:20

講師：船田なつの先生（東京大学 大学総合教育研究センター特任講師）

場所：オンライン（Zoom）

日本語題目：英語学習者の言語態度に関する質問紙の開発

英語題目：The development of a new measure of English language learners' attitudes towards English as a global language

発表概要：

現在英語は国際共通語として使用されており、様々な変種が存在しているにもかかわらず、英語教育ではいまだに母語話者を規範とする考え方が多い。実際の英語使用状況を英語教育にも反映させるために、英語習得・教授を専門とする研究者の間で、英語の様々な変種を許容するパラダイム（＝Global Englishes）へのシフトの必要性が提唱され、近年注目されはじめている。実際、Global Englishes Language Teaching（GELT）と呼ばれる学習者中心の教育フレームワークでは従来の英語教育とは異なる、母語話者による英語ではなく、様々なバックグラウンドを持つ英語話者による多様で柔軟な英語を規範とするために、必要な要素をわかりやすく提示し、カリキュラム改革を促している。

では、実際に学習者は英語に対してどのような言語態度を持っているのだろうか。これまでの研究によると、英語変種に対する許容度は高い一方で母語話者のように話したいという気持ちが強いという結果が出ており、英語が外国語として教育されている環境では特にその傾向が顕著であった。しかしながら、これまでの調査で使用されている質問紙は Global Englishes に対する学習者の複雑な言語態度を十分理解するのに必ずしも適しているわけではないことがわかっており、これを解決するために Global Englishes を研究する専門家グループによって開発された質問紙が、Global Englishes Orientation Questionnaire (GEO-Q) である。この質問紙開発にあたっては、理論と実際の調査の結果の両方に基づいて質問項目が入念に選定された。まず、理論的評価として GELT をもとに 57 項目が選定され、その後イギリスの語学学校での予備調査を通して、質問項目内容の確認を行った。その次の段階として質問紙の reliability (信頼性：一貫性をもって測れているか) と validity (妥当性：測りたいものを測れているか) を本格的に検討した。この予備調査では、韓国と

タイを中心とした 204 人の学習者による回答が集められ、reliability はクロンバックの α 係数、validity は探索的因子分析によって計測された。発表内では実際に R でコマンドを入力しながら、バートレット検定、KMO の標本妥当性などを使ってデータの分析を行い、潜在変数を使って言語態度がどの程度説明されるかを実演した。これらの分析の結果、解釈に留意が必要であるものの、一定の信頼性および妥当性が確認された。最後に、より詳細な言語態度の側面を捉えるための今後の展望が検討された。発表は全編英語で行われ、63 名の参加（申込者は 100 名）があり、Q&A のセッションでも、分析方法を中心に活発な質疑応答があった。

実際の GEO-Q は、以下から閲覧可能です。

Funada, N., Montakantiwong, A., Briggs Baffoe-Djan, J., & Rose, H. (2020). *Global Englishes Orientation Questionnaire (GEO-Q) Version 1.0*. Available from <https://doi.org/10.13140/RG.2.2.33157.58086>

探索的因子分析を初めて行う方向への参考文献として、以下の論文があります。

Yong, A. G., & Pearce, S. (2013). A beginner's guide to factor analysis: Focusing on exploratory factor analysis. *Tutorials in Quantitative Methods for Psychology*, 9(2), 79-94.

支部紀要編集委員会からのお知らせ

支部紀要編集委員長
鈴木彩子（玉川大学）

■支部紀要編集委員会からのお知らせ■

紀要編集委員会は2022年3月の第9号の発行に向けて準備を進めています。紀要のWeb化に伴い、昨年度から原稿締め切りが8月31日となりました。本お知らせは締め切り前の執筆となり、まだ今年度の原稿投稿数は分かっておりませんが、昨年度

は13本の投稿があったことから、今年度も多くの投稿があることを期待しています。8月31日の原稿締め切り後、会員の先生方のご協力を得ながら第一次査読を行い、来年3月の発行に向けて年明けまでに全ての審査を終了し、その後、採録論文の編集・校正作業へと移っていく予定です。

第7号よりWebでの発行となりましたが、関東支部会員の先生方はどのようにお感じになられているでしょうか？残念ながら、このコロナ禍ということもあり、直接感想をお聞きする機会がなかなかありませんが、よりアクセスがしやすくなったと感じて下さっていただければ幸いです。今年度からは更にアクセスしやすいように、また、掲載論文がより多くの方々に読まれるように、XML化を進めていくことが関東支部運営委員会では話合われています。現時点では詳細な情報を提供できるには至っておりませんが、次回のニューズレターではより具体的な情報を掲載できるかと思えます。

今後も紀要の発行が支部会員の先生方の研究・教育活動の刺激になるよう紀要編集委員会では努力を続けていきたいと思えます。そのためにも紀要に関しご意見等ございましたら、ぜひお聞かせいただけると幸いです。

事務局だより
支部事務局幹事
長田恵理（國學院大學）

■JACET 関東支部企画講演会の お知らせ■

2021 年度今後の関東支部講演会及び関東支部企画開催予定は以下の通りです。第2回講演会の申し込みが始まっております。多くの方のご参加をお待ちしております。

2021 年度第2回関東支部講演会（オンライン）

日時：10月9日（土）16:00 - 17:20

題目：The Autonomy-Supportive Classroom: Guiding Learning using Formative Assessment and ICT Tools

講師：福田ステーブ利久 先生（文教大学 教育学部 准教授）

講演言語：英語

参加費：無料（定員 100 名）

事前申込制：

<https://forms.gle/c5xNVzNbGxUdX2q19>

2021 年度第3回 関東支部講演会（オンライン）

12月11日（土）16:00~17:20

題目：教育実践に取り入れたい最新の SLA 研究—

ISLA（学びの場における SLA）を中心に

講師：佐野富士子先生（元横浜国立大学 教授）

■住所変更届提出のお願い■

転居やメールアドレス変更など登録情報変更の際には、JACET 本部事務局へ変更届を提出してくださいませよう、どうぞよろしくお願ひいたします。

***JACET-Kanto Newsletter* 第17号**

発行日：2021年9月30日

発行者：JACET 関東支部（支部長 山口高領）

編集者：長田恵理、下山幸成、

佐野富士子、藤尾美佐

発行所：〒225-0003 神奈川県横浜市青葉区新石川

3-22-1 國學院大學人間開発学部

長田恵理 研究室